

## やれることからやってみよう

綾部市立病院小児科 上野 たまき

医師5年目に息子を授かり、生後3ヶ月のときに大学へ復帰しました。積極的は復帰ではなく、医局長から、「ちょっと4月からもどれへんかなあ」と声をかけてもらい、夫からも「あ〜いいんじゃない」と言われて、なんとなく復帰してしまいました。近くに頼れる親族はいませんでした。その年で閉園する院内託児所に入れるように、夫が手続きに奔走してくれました。2年目研修医の指導医という名目で復帰し、当直はもちろん時間外勤務も免除してもらいました。妊娠中はいろいろ葛藤がありましたが、復帰後は同僚が1学年下の先生達ということや、早く戻ってきてありがとうという暖かい空気があり、すぐに前向きな気持ちになれました。とにかくみんなのあまり好きではない雑務をみつけて、自分のできることを頑張りました。早すぎる復帰のおかげで多くの先生やスタッフから助けてもらい、乳児期はあっという間に過ぎていきました。そして、翌年に現在の病院へ夫婦で赴任します。ここからの数年は本当に大変でした。地方で行く人がいないということで、夫婦で赴任できたわけですが、医師が少ないため、時間外呼び出しが多く、心身ともに随分疲れしました。当時は育児支援も整っておらず、親族も知り合いもない環境です。しかし、あまりに大変そうな私たちをみて、病院のスタッフ、近所の人、いろいろな人たちが手をさしのべてくれました。地域の小児科の先生と言うことで、随分大切にしてもらい、結果的に綾部へきて10年の月日が流れました。ただただ、必要とされることを頑張る毎日でしたが、医師としての仕事を継続していけるよう、少しずつ環境や業務の改善を行っていくことで、後に続いてくれる先生達もできました。立派な肩書きをもてるような歩みではありませんでしたが、凡人でもやれることはたくさんあります。医師としてのモチベーションを保ち続け、現場へ帰ってきてほしいと思っています。

(2012年12月記 所属はホームページ掲載時)

うえの たまき

[著者略歴] 上野 たまき

綾部市立病院小児科部長 京都府立医科大学臨床准教授

名古屋出身

平成8年 京都府立医科大学卒業

産婦人科医の夫と小学6年生の長男の3人暮らし

趣味はバスケットボールと読書